

No.8 顧客登録変更画面 項目制御 プラグイン
プログラム仕様書

プロジェクト番号	
システム名称	
最終更新者	
最終更新日	

プログラム仕様書	プラグイン概要	作成者	
		作成日	

○プラグイン概要

登録更新画面において、入力値の制御やチェックを行う

○処理概要

- ・セレクト型項目の選択肢を変更すると別のセレクト型の選択肢が変化
- ・文字型や数値型について、登録ボタン押下時に入力形式をチェックし条件を満たしていなければ登録できないようにする。

○対象ブラウザ

1. Microsoft Internet Explorer 11
2. Microsoft Edge
3. Google Chrome

○実装方針

対象ブラウザでの動作を満たすため、下記のバージョンに準拠して実装する

1. Javascript : EcmaScript 5
2. HTML : 4.01
3. CSS : 2.1

プログラム仕様書	プラグイン構成	作成者	
		作成日	

○ファイル構成

No.	要素名/階層構造	ファイル概要	備考
1	sample08.zip	プラグインアーカイブ	
2	- manifest.json	マニフェストファイル	
3	+ js	javascript ファイル用フォルダ	
4	- sample08.js	サンプルjavascript	
5			
6			
7			
8			
9			
10			

○定義一覧

No.	要素	子要素	用途	型	値	備考
1	plugin_name		プラグイン名	オブジェクト		
2		ja	日本語	文字列	サンプルプラグイン08	
3		en	英語	文字列	sample plugin08	
4		zh	中国語	文字列	插件的例子08	
5		ko	韓国語	文字列	샘플 플러그인08	
6	menu_type		メニュー表示フラグ	数値	0	0:非表示 1:表示
7	target		適用画面ID配列	配列		
7		[0]	画面ID	文字列	3_006、3_007	顧客登録/変更画面ID
8	note		プラグイン説明	オブジェクト		
9		ja	日本語	文字列	登録更新画面において、入力値の制御やチェックを行う	
10		en	英語	文字列	Control and check the input value on the registration update screen	google翻訳使用
11		zh	中国語	文字列	在注册更新屏幕上控制并检查输入值	google翻訳使用
12		ko	韓国語	文字列	등록 업데이트 화면에서 입력 값의 제어 및 검사를 수행	google翻訳使用
13	version		バージョン	文字列	ver 1.0	
14	author		著者	文字列	softbrain	
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						

○manifest.json

```
{  
  "plugin_name": {  
    "ja": "サンプルプラグイン08",  
    "en": "sample plugin08",  
    "zh": "插件的例子08",  
    "ko": "샘플 플러그인08"  
  },  
  "menu_type": 0,  
  "target": ["3_006", "3_007"],  
  "note": {  
    "ja": "登録更新画面において、入力値の制御やチェックを行う",  
    "en": "Control and check the input value on the registration update screen",  
    "zh": "在注册更新屏幕上控制并检查输入值",  
    "ko": "등록 업데이트 화면에서 입력 값의 제어 및 검사를 수행"  
  },  
  "version": "ver 1.0",  
  "author": "softbrain"  
}
```

○適用画面影響箇所 ※顧客登録画面との差異は保存関数のみ ※「2. check_text/submitForm」



○適用コンポーネント一覧

No.	新規	適用要素	タイプ	型	追加処理	備考
1	○	ready	javascript	関数	項目データの取得(RestAPI)及びUI操作	ページロード時イベント
2		check_text	javascript	関数	ボタン押下時に入力フォーマットチェック	「登録」ボタン押下時実行
3	○	EXT_3_CUST_SELECT_4	html	セレクトボックス	画面初期表示時にチェックを入れる	
4	○	EXT_3_CUST_SELECT_3	html	セレクトボックス	選択変更時にセレクトボックス制御を行う	
5	○	EXT_3_CUST_VARCHAR_1	html	テキストボックス		本UIに追加処理は無し
6	○	EXT_3_CUST_VARCHAR_2	html	テキストボックス		本UIに追加処理は無し
7						
8						

○No.8定義

拡張シートに定義された大項目、中項目が階層構造を表現している。

この定義から作成されたデータを元に、セレクトボックスの選択時制御をおこなう。

ブラウザのアドレスバー: http://localhost:8080/R8_0_0_jsplugin/esales-pc

タブ: No.8定義検索 | eセールスマネ...

メニュー: 基本メニュー, ダッシュボード, 顧客, 案件, 名刺, 活動, No.7定義, No.8定義

No.8定義検索結果

条件なし

該当件数 10 件

ID	大項目	中項目	登録日	登録者	最終更新日	最終更新者
10001	大項目A	中項目1	2020-04-24 13:05	一般2	2020-04-24 13:05	一般2
10002	大項目B	中項目2	2020-04-24 13:06	一般2	2020-04-24 13:14	一般2
10003	大項目B	中項目3	2020-04-24 13:06	一般2	2020-04-24 13:06	一般2
10004	大項目C	中項目4	2020-04-24 13:14	一般2	2020-04-24 13:14	一般2
10005	大項目C	中項目5	2020-04-24 13:15	一般2	2020-04-24 13:15	一般2
10006	大項目C	中項目6	2020-04-24 13:15	一般2	2020-04-24 13:16	一般2
10007	大項目D	中項目7	2020-04-24 13:16	一般2	2020-04-24 13:16	一般2
10008	大項目D	中項目8	2020-04-24 13:17	一般2	2020-04-24 13:17	一般2
10009	大項目D	中項目9	2020-04-24 13:17	一般2	2020-04-24 13:17	一般2
10010	大項目D	中項目10	2020-04-24 13:17	一般2	2020-04-24 13:17	一般2

大項目に紐づく中項目を設定
※一つの大項目の下に二つの中項目が紐づいている

○追加処理

i. セレクトボックスの連動（セレクト型項目の選択肢を変更すると別のセレクト型の選択肢が変化）

① 画面を開いた際、No.8大項目のセレクトボックス情報を連想配列に格納する

大項目のセレクトボックスのに格納されている選択データが

「No.8定義」の情報と紐づくため、選択(option)のテキストデータを連想配列に格納しておく。

② No.8大項目のセレクトボックス変更イベントを取得するリスナーを設定する

[3. EXT_3_CUST_SELECT_4]のセレクトボックスの選択が変更された事を通知するリスナーを設定する。

実行処理は⑥の処理を呼び出す。

③No.8中項目の選択項目(Option)を配列に格納する

[4. EXT_3_CUST_SELECT_3]のセレクトボックスの選択項目(Option)のHTML文字列を配列に格納する。

※選択切り替え時の選択項目追加に使用する。

④REST APIで拡張シート情報(No.8定義)の登録データ一覧を取得する

RestAPI

URL : [コンテキストパス]/rest/v1/entities/search

Method : POST

Header :

X-Auth-API-Token : [管理者が発行したAPIトークン]

contentType: 'application/json'

data : {

searchCondition: {

targetObjectName: "customize_20135" ※拡張シート番号

},

columnCodes: [10106,10107], ※大項目、中項目コード

sortKeys: [{

columnCode: 10106, ※大項目コード

desc: false

}],

fromIndex: 1

}

- ⑤ ④で取得した拡張シート情報(No.8定義)の登録データを連想配列に格納
大項目、中項目の登録済みデータから大項目、中項目の連想配列を作成する
連想配列は中項目をキーに大項目の文字列を格納する

- ⑥ No.8大項目のセレクトボックス変更時にNo.8中項目のセレクトボックスの表示状態を変更する
[3. EXT_3_CUST_SELECT_4]のセレクトボックスの選択状態変更時に実行する。
選択済みNo.8大項目に紐づくNo.8中項目のみ選択項目として表示する
※jQueryの.hide()ではIE11でOptionコンポーネントに対して機能しないため.remove()を使用する

[処理フロー]

- ⑥-1 No.8大項目の選択状態を取得
⑥-2 No.8中項目の選択(Option)を全て削除する ※①からの呼び出しでは実施しない
⑥-3 ③で取得したバックアップから選択(Option)を全て追加する ※①からの呼び出しでは実施しない
⑥-4 大項目が「選択しない」以外の場合、大項目に紐づく中項目以外を全て削除する

iii. 特定の検索条件の入力を満たしていなければ検索押下時に検索できないようにする。※[2. onSearch]実行

- ①check_text関数の呼び出しをフックしNo.8英数字とNo.8実数の入力フォーマットが正しいかチェックする

[処理フロー]

- ①-1 No.8英数字の入力値を正規表現「^[A-Za-z0-9]*\$」でチェックし、一致しない場合はアラートダイアログを表示する
※「No.8英数字の入力値が不正です。英数字のみ入力可能です。」
①-2 No.8実数の入力値を正規表現「^[-]*([1-9]¥d*|0)(¥.¥d+)\$」でチェックし、一致しない場合はアラートダイアログを表示する
※「No.8実数の入力値が不正です。実数(例:1.1)のみ入力可能です。」

○適用画面影響箇所 ※顧客登録画面との差異は保存関数のみ ※「2. check_text/submitForm」



○適用コンポーネント一覧

No.	新規	適用要素	タイプ	型	追加処理	備考
1	○	ready	javascript	関数	項目データの取得(RestAPI)及びUI操作	ページロード時イベント
2		submitForm	javascript	関数	ボタン押下時に入力フォーマットチェック	「変更」ボタン押下時実行
3	○	EXT_3_CUST_SELECT_4	html	セレクトボックス	画面初期表示時にチェックを入れる	
4	○	EXT_3_CUST_SELECT_3	html	セレクトボックス	選択変更時にセレクトボックス制御を行う	
5	○	EXT_3_CUST_VARCHAR_1	html	テキストボックス		本UIに追加処理は無し
6	○	EXT_3_CUST_VARCHAR_2	html	テキストボックス		本UIに追加処理は無し
7						
8						

○No.8定義

拡張シートに定義された大項目、中項目が階層構造を表現している。

この定義から作成されたデータを元に、セレクトボックスの選択時制御をおこなう。

ブラウザのアドレスバー: http://localhost:8080/R8_0_0_jsplugin/esales-pc

ブラウザのタブ: No.8定義検索 | eセールスマネ...

アプリケーションのメニュー: 基本メニュー, ダッシュボード, 顧客, 案件, 名刺, 活動, No.7定義, No.8定義

現在のページ: No.8定義検索

サブメニュー: No.8定義, No.8定義リスト, No.8定義検索

操作ボタン: No.8定義登録, リストへの追加, 一覧表示項目を変更, 条件なし, 条件保存, 検索条件変更

該当件数: 10件 (表示: 15件)

ID	大項目	中項目	登録日	登録者	最終更新日	最終更新者
10001	大項目A	中項目1	2020-04-24 13:05	一般2	2020-04-24 13:05	一般2
10002	大項目B	中項目2	2020-04-24 13:06	一般2	2020-04-24 13:14	一般2
10003	大項目B	中項目3	2020-04-24 13:06	一般2	2020-04-24 13:06	一般2
10004	大項目C	中項目4	2020-04-24 13:14	一般2	2020-04-24 13:14	一般2
10005	大項目C	中項目5	2020-04-24 13:15	一般2	2020-04-24 13:15	一般2
10006	大項目C	中項目6	2020-04-24 13:15	一般2	2020-04-24 13:16	一般2
10007	大項目D	中項目7	2020-04-24 13:16	一般2	2020-04-24 13:16	一般2
10008	大項目D	中項目8	2020-04-24 13:17	一般2	2020-04-24 13:17	一般2
10009	大項目D	中項目9	2020-04-24 13:17	一般2	2020-04-24 13:17	一般2
10010	大項目D	中項目10	2020-04-24 13:17	一般2	2020-04-24 13:17	一般2

大項目に紐づく中項目を設定
※一つの大項目の下に二つの中項目が紐づいている

○追加処理

i. セレクトボックスの連動（セレクト型項目の選択肢を変更すると別のセレクト型の選択肢が変化）

① 画面を開いた際、No.8大項目のセレクトボックス情報を連想配列に格納する

大項目のセレクトボックスのに格納されている選択データが

「No.8定義」の情報と紐づくため、選択(option)のテキストデータを連想配列に格納しておく。

② No.8大項目のセレクトボックス変更イベントを取得するリスナーを設定する

[3. EXT_3_CUST_SELECT_4]のセレクトボックスの選択が変更された事を通知するリスナーを設定する。

実行処理は⑥の処理を呼び出す。

③No.8中項目の選択項目(Option)を配列に格納する

[4. EXT_3_CUST_SELECT_3]のセレクトボックスの選択項目(Option)のHTML文字列を配列に格納する。

※選択切り替え時の選択項目追加に使用する。

④REST APIで拡張シート情報(No.7定義)の登録データ一覧を取得する

RestAPI

URL : [コンテキストパス]/rest/v1/entities/search

Method : POST

Header :

X-Auth-API-Token : [管理者が発行したAPIトークン]

contentType: 'application/json'

data : {

searchCondition: {

targetObjectName: "customize_20135" ※拡張シート番号

},

columnCodes: [10106,10107], ※大項目、中項目コード

sortKeys: [{

columnCode: 10106, ※大項目コード

desc: false

}],

fromIndex: 1

}

- ⑤ ④で取得した拡張シート情報(No.8定義)の登録データ一覧を連想配列に格納
大項目、中項目の登録済みデータから大項目、中項目の連想配列を作成する
連想配列は中項目をキーに大項目の文字列を格納する

- ⑥ No.8大項目のセレクトボックス変更時にNo.8中項目のセレクトボックスの表示状態を変更する
[3. EXT_3_CUST_SELECT_4]のセレクトボックスの選択状態変更時に実行する。
選択済みNo.8大項目に紐づくNo.8中項目のみ選択項目として表示する
※jQueryの.hide()ではIE11でOptionコンポーネントに対して使用できないため.remove()を使用する

[処理フロー]

- ⑥-1 No.8大項目の選択状態を取得
⑥-2 No.8中項目の選択(Option)を全て削除する ※①からの呼び出しでは実施しない
⑥-3 ③で取得したバックアップから選択(Option)を全て追加する ※①からの呼び出しでは実施しない
⑥-4 大項目が「選択しない」以外の場合、大項目に紐づく中項目以外を全て削除する

iii. 特定の検索条件の入力を満たしていなければ検索押下時に検索できないようにする。※[2. submitForm]実行

- ①submitForm関数の呼び出しをフックしNo.8英数字とNo.8実数の入力フォーマットが正しいかチェックする

[処理フロー]

- ①-1 No.8英数字の入力値を正規表現「`^[A-Za-z0-9]*$`」でチェックし、一致しない場合はアラートダイアログを表示する
※「No.8英数字の入力値が不正です。英数字のみ入力可能です。」
①-2 No.8実数の入力値を正規表現「`^[^-]*([1-9]¥d*|0)(¥.¥d+)$`」でチェックし、一致しない場合はアラートダイアログを表示する
※「No.8実数の入力値が不正です。実数(例:1.1)のみ入力可能です。」